

## 研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

### ① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

- ・ 研究課題名： 中枢神経原発リンパ腫患者髄液を用いた診断・新規治療法の確立
- ・ 目的： 中枢神経系原発悪性リンパ腫は、脳腫瘍の一種で脳腫瘍全体の約5%を占め、50～80歳の方にとくに多くみられます。悪性リンパ腫は、生体防御の役割をおこなうリンパ球ががん化したものを言いますが、それが脳や脊髄（中枢神経系）にできたものが中枢神経系原発悪性リンパ腫です。近年増加傾向にあります。その発生する仕組みはよくわかっておりません。中枢神経系原発悪性リンパ腫は、膠芽腫などの他の悪性神経膠腫と異なり、手術により腫瘍組織をできるだけ多く取り除いても必ずしも予後がよくなるとは限らないため、生検のみを行い摘出手術を行わないこともあります。そこで、治療方針としては、生検や摘出手術により得られた腫瘍の一部から病理検査をおこない、診断を確定した後、化学療法や放射線療法を行います。脳腫瘍の種類により、手術の方針や治療方法が異なるため、手術前にそれぞれの腫瘍が正確に診断できることが重要となります。しかし、MRIやCTによる画像検査だけでは十分な鑑別診断が正確にできない場合が多く、手術をおこなって初めて診断が確定することがよくあります。近年世界中で遺伝子の研究が進み、脳腫瘍の発生にはさまざまな遺伝子が関係していることが分かってきました。その中にMyD88やCD79Bという遺伝子やマイクロRNAがあります。中でもMyD88やCD79Bは免疫系において中心的な役割を担い、これらの遺伝子の突然変異は、細胞内のシグナルを増強し、細胞の生存を促すことで腫瘍化すること知られています。またそのために腫瘍特異的な代謝産物を産生することも知られています。これら遺伝子の突然変異は、中枢神経系原発悪性リンパ腫の患者さんの腫瘍組織や髄液中の微量のDNAにおいて頻繁にみられることが知られています。そこで髄液の遺伝子検査やマイクロRNAと代謝産物のメタボローム解析と画像検査などを組み合わせることにより中枢神経系原発悪性リンパ腫を手術前に高い確率で診断することができれば、それにあった治療方法を手術侵襲なく選択することができるようになります。この技術は、健康な人が中枢神経系原発悪性リンパ腫を発症するリスクや、中枢神経系原発悪性リンパ腫の患者さんが治療後、再発するリスクを予測する方法の開発にもつながると期待されています。そこで、本研究では、中枢神経系原発悪性リンパ腫の疑われる患者さんの髄液中で中枢神経系原発悪性リンパ腫に特異的にみられるMyD88遺伝子やCD79Bの突然変異の有無やリンパ腫に特徴的にみられるマイクロRNAを調べたり、メタボローム解析を行いリンパ腫で特徴的にみられる代謝産物を調べることにより、中枢神経系原発悪性リンパ腫の診断と治療に役立てることが可能かを検討することを目的としています。

- ・ 研究期間： 承認日 ～ 2027 年 3 月31日
- ・ 研究対象： 2007年4月1日 ～ 2027 年 1 月31日

### ② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

手術摘出した腫瘍組織の一部  
通常の診療で採取した髄液

患者さんの臨床情報（性別、年齢、KPS（Karnofsky Performance Status）、脳腫瘍を発症した時期や脳腫瘍に関する情報（腫瘍の個数、大きさ、部位など）、治療経過など）

③ 利用する者の範囲

研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科 三島一彦

共同研究機関：

慶応義塾大学医学部医化学教室 専任講師 杉浦 悠毅

東京医科大学医学総合研究所分子細胞治療研究部門 教授 落谷孝広

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

研究代表者：

埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科 三島一彦

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話:042-984-4531

・ 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者：

埼玉医科大学国際医療センター 脳脊髄腫瘍科 三島一彦

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話:042-984-4531